

# 令和元年度 熊毛地区道徳教育研修会－屋久島地区－

令和元年10月8日(火) 屋久島町立中央中学校

## 【研究テーマ】

豊かなかかわりを通して、自らを見つめ、よりよい  
生き方を主体的に問い続ける子どもの育成  
～「特別の教科 道徳」における  
「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して～



## 道徳授業公開に寄せて

熊毛教育事務所

熊毛地区道徳教育研修会は、道徳教育の振興充実を図るために行うもので、屋久島地区では隔年で開催しております。本年度、授業公開をしてくださる屋久島町立中央中学校の先生方、並びに本日、研修会に参加してくださった皆様方に心から感謝申し上げます。中央中学校は、本年度、学校教育目標を見直すなど、自立する力を身に付けた心身たくましく鍛え合う生徒の育成を目指し、課題解決に向け、全職員が一丸となって教育活動の充実に邁進しておられます。道徳の研究の根幹となる学校教育目標や研究全体の取組も素晴らしいものがあります(以下の図を参照)。本日の研修会を通して、多くのことを相互に学び合い、明日からの道徳教育の充実につなげていただければ幸いです。

## 学校教育目標及び校内研究の柱

【屋久島で、こんな子どもを育てたい】  
[1]屋久島が好きだという子ども  
[2]自分の言葉で語れる子ども  
[3]自分が大好き(大切にする)、周りの人も大好き(大切にする)という子ども  
[4]自分の命は自分で守れる子ども  
[5]将来の夢(目標)をもった子ども

### 学校教育目標

自他を大切にすることをもち、自立する力を身に付けた、心身たくましく鍛え磨き合う生徒の育成

校訓：自 主 (創造・自立する力)  
友 愛 (節度・自他を大切にすること)  
鍛 錬 (勤労奉仕・心身の向上)



### めざす学校像

笑顔の輝く学校  
＝自分らしさが大切にされる学校

### めざす生徒像

[自 主] 自ら学び考え、自立する力を身に付けた生徒  
[友 愛] 礼儀正しく素直で、自他を大切にすることをもち生徒  
[鍛 錬] 勤労奉仕を尊び、心身を鍛え伸ばす生徒

### めざす家庭像

温かく包容力があり、親子がともに成長する家庭

### めざす教師像

広い視野に立ち、バランス感覚のある教師

### 【伸ばしたい力・心】

○人権尊重の精神      ○豊かな人間性      ○基礎学力と活用力  
○自他を大切にすること      ○自立する力      ○気力・体力  
○創造力・自己表現力      ○礼節・感謝      ○勤労・奉仕する精神

保護者・地域の願い

## 校内研究テーマ

生徒一人一人の能力を伸ばし、社会で自立する力を育む指導法の研究

柱1

中央中スタイルの徹底と実践

柱2

キャリア教育の視点に立った進路指導の研究実践

柱3

自立を促す道徳教育の在り方に関する研究実践

柱4

基本的な生活習慣の定着に向けた研究実践

# 1 「考え、議論する道徳」とは

「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では、道徳教育の目標として「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野で多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践的意欲と態度を育てる。」ことが求められている。

そこで、道徳科の授業では、次の4点に留意して授業を行うことで質的転換を図ることにした。

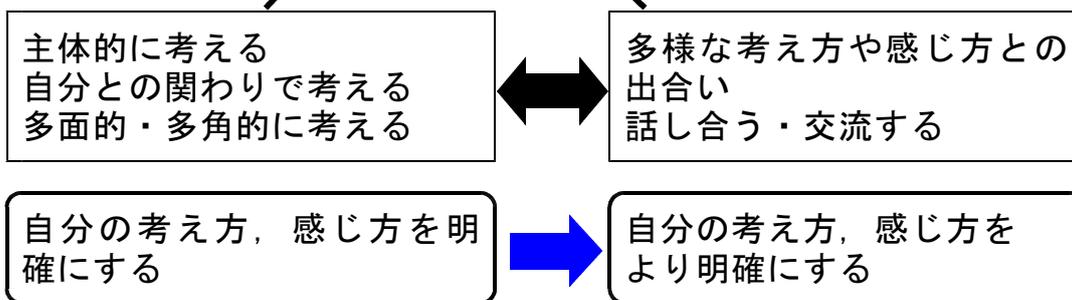
道徳科における学習	1	道徳的諸価値について理解する	フィック	<input type="checkbox"/>
	2	自己を見つめる		<input type="checkbox"/>
	3	物事を広い視野で多面的・多角的に考える		<input type="checkbox"/>
	4	人間としての生き方についての考えを深める		<input type="checkbox"/>

## 中央中での定義

「考え、議論する道徳」を、「生徒が常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、学び合うことを通して、人間としての生き方について深く考えていく学習」と定義した。

# 2 「考え、議論する道徳」を実現する多様な指導方法

## 考え、議論する道徳



## 中央中では

…従来の「読み物資料からの登場人物への自我関与が中心の学習」の授業だけでなく、「問題解決的な学習」、「体験活動を生かした学習」

「道徳的行為に関する体験的な学習」など多様な指導方法を工夫した。特に、中央中では、下の(1)問題解決的な学習と(2)体験活動を生かした学習の授業スタイルを研究実践した。

(1) 問題解決的な学習	(2) 体験活動を生かした学習
実生活では、複数の道徳的価値が対立し、葛藤が生じる場面が多い。その際、生徒は時と場合、場所などに応じて、複数の道徳的価値の中から、どの価値を優先するのかの判断をすることになる。こうした問題や課題を取り上げ、生徒が多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、よりよく生きるための資質や能力を養うことをねらいとした指導方法。	生徒が職場体験学習や自然体験学習などの体験活動を通して感じたことや考えたことを基に対話を深めることで、生徒が気付いた道徳的価値の意味や大切さなどについて深く考えられるようにする指導方法。 指導を通して、内面的資質・能力である道徳性をより確かに定着させる。

### 3 授業スタイル(1)―「問題解決的な学習」の授業展開例―

ねらい

問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

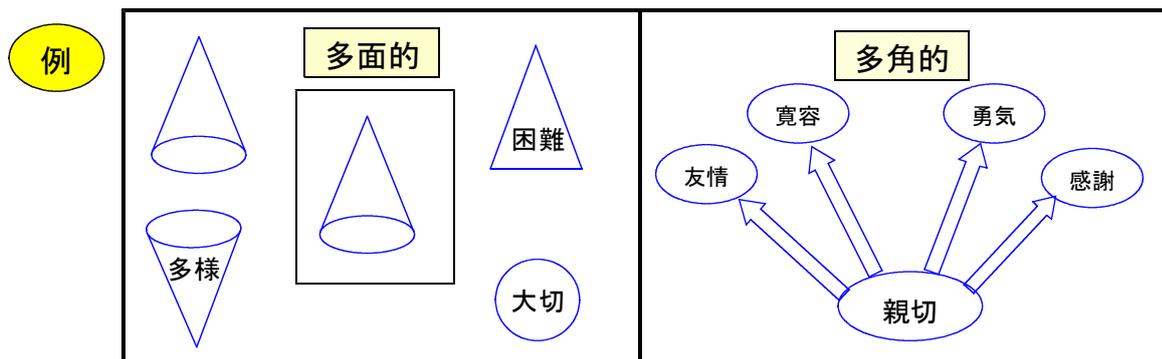
段階	生徒の活動	指導上の留意点(・発問例)
導入	<p>① 主題に関わるめあてを知る。 【道徳的価値の意味や意義の確認】</p> <p>② 資料を読む(見る, 聴く)。</p>	<p>① 主題に関わる問いをする。 ・経験や事例から「〇〇でよかったのはどんなときですか」 ・取り上げる価値について「あなたにとって〇〇とは」「〇〇について考えよう」</p> <p>② 教科書, 写真, 動画, スライドを提示する。</p> <p>③ 自己の問題として捉えた解決策の対立点等を明らかにし, 判断を書かせることで, 何を大切にしようとしているのか, 自己の道徳的価値を明らかにする。 ・問題の把握「ここでは何が問題となっていますか」 ・問題の解決に向けて「問題を解決するにはどうしたらよいですか」 「あなたならどのようにしますか(考えますか)」</p>
展開	<p>④ 友達の考え方や全体の考え方を確認する。【考えの可視化】</p> <p>⑤ 互いの考えとその理由を伝え合い, 問題解決に向けて意見を交流する。【話し合い〔ペア・グループ〕】</p> <p>⑥ 多様な考えや理由がある中で, よりよい解決策を吟味していくように全体で話し合う。【話し合い〔全体〕】</p>	<p>④ ワークシートを見合ったりやホワイトボードを黒板に張ったりすることで確認させる。</p> <p>⑤ できるだけ多様な考えに触れさせる。 話し合いの前に「考えが違う相手から交流する」「相手の考えやその理由をメモする」「疑問に思ったことは質問する」などの留意点を確認させる。 ・理由の共有「なぜそのように考えるのですか」</p> <p>⑥ 出された意見を類型化したり対立した意見は全体的にまとめたりし, 板書で可視化し整理しながら解決策を吟味させる。 <b>生徒が広い視野から多面的・多角的に考えられるように工夫する。</b>(板書の工夫)</p>
終末	<p>⑦ 人間としての生き方について考え, これからの自己を見つめる。 授業を通して学んだことや, これからの自己について記述する。 【書く活動②】</p>  <p>⑧ 記述内容を見て自己の変容を確かめる。</p>	<p>⑦ 主題に照らして, これまでの自分にすることを考えさせる。 ・導入と同様の発問「あなたにとって本当の〇〇とは」 ・考えの変化について「考えが変わったところは」「強くなった思いは」 ・学んだことについて「どんなことを学びましたか」 ・これまでの自分について「これまでの自分はどうでしたか」 ・これからの自分について「これからの自分はどうしていきたいですか」</p> <p>⑧ よりよく生きていこうとする道徳的実践につなげるようにする。</p>

**ポイント** 「自分の考えを広げ, 深める」段階で, 生徒が物事を多面的・多角的に考えるようにする。

人としての生き方や社会の在り方について, 多様な価値観の存在を前提にして, 他者と対話したり協働したりしながら, 広い視野から物事を多面的・多角的に考察すること。… (解説書「特別の教科 道徳」から)

**中央中では** **広い視野から多面的・多角的に考える** を以下のように捉えた。

物事を一面的に捉えるのではなく, 生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え, 様々な視点から物事を理解し, 主体的に学習に取り組むことができるようにした。例えば, 発達段階に応じて二つの概念が互いに矛盾, 対立しているという二項対立の物事を取り扱うなど, 指導を工夫した。



# 授業スタイル(2)―「特別活動等の体験活動を生かした学習」授業展開例一

ねらい

屋久島町が提唱しているE S Dなどの体験活動において、自分が考えたことや感じたことを道徳科の話合いで生かすことで、道徳的実践を主体的に行う意欲と態度を育成する。

段階	生徒の活動	指導上の留意点(・発問例)
導入	<p><b>自己を見つめる</b></p> <p>① 主題に関わるめあてを知る。 【道徳的価値の意味や意義の確認】</p> <p>② 体験活動の感想等を発表する。</p> <p>③ 資料を読む(見る, 聴く)。</p> <p>④ 資料における道徳上の問題の状況をつかむ。 道徳上の問題に関わる自己の考えとその理由を記述する。【書く活動①】</p>	<p>① 主題に関わる問いをする。 ・「体験活動で〇〇でよかったのはどんなときですか。」 ・取り上げる価値について「あなたにとって〇〇とは」「〇〇について考えよう」</p> <p>② 事前にレポート用紙にまとめさせておく。</p> <p>③ 体験活動の感想や映像, スライドを提示する。</p> <p>④ 自己の問題として捉え, 判断を書かせることで, 何を大切にしようとしているのか, 自己の道徳的価値を明らかにする。 ・問題の把握「ここでは何が問題となっていますか」 ・問題の解決に向けて「問題を解決するにはどうしたらよいですか」「あなたならどのようにしますか(考えますか)」</p>
展開	<p><b>自分の考えを広げ、深める</b></p> <p>⑤ 友達の考え方や全体の考え方を確認する。【考えの可視化】</p> <p>⑥ 互いの考えとその理由を伝え合い, 問題解決に向けて意見を交流する。【話合い〔ペア・グループ〕】</p> <p>⑦ 多様な考えや理由がある中で, よりよい解決策を吟味していくように全体で話し合う。【話合い〔全体〕】</p>	<p>⑤ ワークシートを見合ったりやホワイトボードを黒板に張ったりすることで確認させる。</p> <p>⑥ できるだけ多様な考えに触れさせる。 話合いの前に「考えが違う相手から交流する」「相手の考えやその理由をメモする」「疑問に思ったことは質問する」などの留意点を確認させる。 ・理由の共有「なぜそのように考えるのですか」</p> <p>⑦ 出された意見を類型化したり対立した意見は全体的にまとめたりし, 板書で可視化し整理しながら解決策を吟味させる。 <b>生徒が広い視野から多面的・多角的に考えられる</b>ように工夫する。(板書の工夫)</p>
終末	<p><b>人間としての生き方について考え自己を深く見つめる</b></p> <p>⑧ 人間としての生き方について考え, これからの自己を見つめる。 体験活動や授業を通して学んだことや, これからの自己について記述する。【書く活動②】</p>  <p>⑨ 記述内容を見て自己の変容を確かめる。</p>	<p>⑧ 主題に照らして, これまでの自分に不足していたこと, これからの自分にできることを考えさせる。 ・考えの変化について「考えが変わったところは」「強くなった思いは」 ・学んだことについて「どんなことを学びましたか」 ・これまでの自分について「これまでの自分はどうでしたか」 ・これからの自分について「これからの自分はどうしていきたいですか」</p> <p>⑨ よりよく生きていこうとする道徳的実践につなげるようにする。</p>

## 4 道徳科「授業づくりのポイント」の活用

次の「授業づくりのポイント」を授業構想や授業研究, 校内研修等で活用した。

中央中作成

段階	授業づくりのポイント	チェック
導入	① 学習指導要領解説や年間指導計画に基づいたねらいを設定していますか。	
	② 主題に対する問題意識や教材の内容への興味・関心をもたせていますか。	
	③ 教材は, 内容項目に照らして考えさせたい場面や事柄を取り上げていますか。	
	④ 自分との関わりで主体的に考えさせる場面が設定されていますか。	
展開	⑤ 考える必然性や切実感のある発問になっていますか。	
	⑥ 友達や先生と考えたことや感じたことを交流する場面が設定されていますか。	
	⑦ 生徒が多面的・多角的に考えられるように, 発問や方法を工夫していますか。	
	⑧ 思考を深める手がかりとなる効果的な(構造的な)板書計画ができていますか。	
終末	⑨ 生徒が人間としての生き方について深く考える場面を設定していますか。	
	⑩ 評価方法や重点的に見取る視点を決めていますか。	

### 【参考文献】

- 中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」(平成29年7月)
- 考え, 議論する「特別の教科 道徳」を実現するために Q&A
- よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳科の在り方(H27・H28)
- 「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて
- 道徳の特別の教科化と授業改善の在り方

### 【発行所】

文部科学省  
鹿児島県総合教育センター  
佐賀県教育センター  
宮城県教育センター  
奈良県教育委員会